

平成30年 5月28日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02974

研究課題名(和文) サウジアラビア北西部における古代遊牧民の埋葬・祭祀遺跡の研究

研究課題名(英文) An Archaeological Research for Ancient Funeral and Ritual Features in the Northwestern Saudi Arabia

研究代表者

足立 拓朗 (Adachi, Takuro)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：90276006

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、計画通りサウジアラビア北西部で複数の遺跡の位置や内容を確認した。これらの遺跡には、銅石器時代と考えられる環状祭祀遺構と前期青銅器時代と考えられる円塔墓と台状祭祀遺構が含まれていた。研究の結果、3遺構の系統関係を示す内部施設の特定に成功し、これらが通時的に関連していることが明らかになった。その他に銅石器時代末期に属する新たなタイプの遺構(不正形の立石遺構)を検出した。また、同じく銅石器時代末期に属する集落遺跡を検出した。この遺構は径5mほどの円形遺構が連なった形状を有しており、集落と家畜囲いと考えられる。最終年度に集落遺跡を発見することができ、今後の古代遊牧民研究の指針となった。

研究成果の概要(英文)：This research led to the discovery of scores of archaeological sites in Northwestern Saudi Arabia and involved recording their locations and other details. These sites of the Early Bronze Age were characterized by three distinct features: Chalcolithic Enclosures, Tower Tombs, and Platforms. Therefore, it was clarified that these three features were closely related in chronological order. Moreover, standing stone alignment features dating back to the end of the Chalcolithic period were recognized for the first time in the research field. In addition, new settlement sites toward the end of the Chalcolithic period were also discovered. These settlement sites comprised conjunct round feature complexes considered to be dwellings and corrals. The discovery of the Chalcolithic settlement sites offers new perspectives on ancient nomad research in the research field.

研究分野：西アジア考古学

キーワード：西アジア 青銅器時代 アラビア半島 遊牧民 銅石器時代

## 1. 研究開始当初の背景

西アジア史において、メソポタミア文明やイスラーム文明の発生や展開は大きな研究テーマである。考古学研究では、その解明のために都市遺跡を中心に調査が行われてきたが、周辺遊牧民にはあまり関心もたれてこなかった。これは遊牧民が生活痕跡を殆ど遺さないという仮説に基づいていた。しかし、遊牧民が多くの埋葬・祭祀遺跡を砂漠地帯に遺していることが最近の調査で判明しており、砂漠地帯の調査に関心が集まっている。2013年にベルリンで開催された国際ヨルダン歴史考古学会議では、砂漠地帯の調査についてのセッションが設けられた。同会議では申請者自身も口頭発表を行った。

2006年以降、申請者は砂漠遊牧民の考古学研究を継続しており、特にシリア、ヨルダンを中心に活動してきた。現在、シリアは内戦により調査・研究が困難になった。そこで、申請者は積極的に研究を南へ展開させるためサウジアラビアの砂漠地帯での調査を計画した。アラビア半島には砂漠遊牧民の遺した「円塔墓」という独自の埋葬施設が存在しており、シリア・ヨルダンの積石塚墓とは構造・形態が大きく異なっている。特にサウジアラビア北西部は、円塔墓と積石塚墓の境界に位置し、両埋葬施設の境界を把握することができる。これにより、アラビア半島とシリア・ヨルダンの古代遊牧民の祭祀・埋葬文化の違いを明確にできる。

そのような中で、サウジアラビア北西部のタブーク州およびジョウフ州で、申請者の所属する金沢大学は調査権を取得しており、申請者自身は2013、2014年度に日本学術振興会の二国間交流事業によりサウジアラビア政府との共同調査を実施した。同事業はサウジアラビア人考古学者を育成することも含まれていたため、サウジアラビア側から研究の継続を強く望まれている。そして、同事業では百数件の祭祀・埋葬遺跡を発見し、サウジアラビア北西部の埋葬施設の大半が円塔墓であるという見通しも得られた。しかし、

その構造はアラビア半島中・南部とは異なるものであるという新たな課題も浮上した。

## 2. 研究の目的

サウジアラビア北西部砂漠地帯における青銅器時代の埋葬・祭祀遺跡の分布図・実測図を作成し、アラビア半島古代遊牧民の独自性を明らかにする。申請者は2013、2014年度の二国間交流事業により、対象地域の研究に着手している。シリア、ヨルダンでの研究経験を活かし、2年間で百数件の埋葬・祭祀遺跡を新発見し、大きな研究成果を得ている。しかし、発見した遺跡の大半が盗掘によって破壊されていることも判明した。早急に研究を進めなければ、多くの遺跡が失われてしまう危険性が強く、緊急の対応が必要である。

## 3. 研究の方法

サウジアラビア、タブーク州において、青銅器時代の祭祀遺跡を調査した。本調査研究はサウジアラビア考古観光委員会の協力の下に行われた。主に遺跡の分布調査を計画していたが、発掘調査も可能となったため、予想以上の成果を挙げる事が出来た。

紅海沿岸のワディ・シャルマ地区、内陸部のワディ・グバイ地区で調査を実施し、青銅器時代だけでなく銅石器時代の祭祀関連遺構を調査した。

## 4. 研究成果

2015年度の調査は紅海沿岸のワディ・シャルマ周辺地区に対して行われた。本地区は1970年代に分布調査が行われており、その成果との整合関係を明確にすることが目的の一つであったが、当時の資料が残っておらず、正確な同定は困難であった。複数の遺跡を分布調査で位置や内容を確認したが、これらの遺跡は新発見のものと考えられる。

発見した遺跡の多くは盗掘の被害を受けて破壊されており、早急の調査・保存が望まれる。新発見遺跡の中でウンム・グルナイン1遺跡、アル・バルカ1遺跡を発掘した。この2遺跡は後期銅石器時代と考えら

れる環状祭祀遺構(Enclosure)と前期青銅器時代と考えられる円塔墓(Tower Tomb)と台状祭祀遺構(Platform)が含まれていた。

これらの3遺構(環状祭祀遺構、円塔墓、台状祭祀遺構)がどのような祭祀・埋葬に使用されていたのか、これまでの研究では明らかにされていなかった。本調査では、上記3遺構の系統関係を示す内部施設の特定に成功し、これら通時的に関連していることが明らかになった。

サウジアラビアの文化財に関しては、特別な許可がなければ調査終了時の共同執筆報告書完成以前には刊行物としての論文執筆はできない。そのため2015年度は関連地域のシリア、イランの古代遊牧民の葬制についての論文を発表した(雑誌論文、学会発表)。

2016年度には、紅海沿岸のワディ・シャルマ地区と内陸部のワディ・モホラク地区の2地区に対して調査を行った。これらの地区にも銅石器時代(紀元前4800~3500年頃:較正年代)と考えられる環状祭祀遺構(Enclosure)と前期青銅器時代(紀元前3500~2000年頃)と考えられる円塔墓(Tower Tomb)と台状祭祀遺構(Platform)が含まれていた。

2016年度の大きな成果は、ワディ・シャルマ地区において、後期銅石器時代末期に属する新たなタイプの遺構(不正形の立石遺構)を検出したことである。この遺構から良好な放射炭素年代データが複数得られたため、銅石器時代末の時期(紀元前4000~3500年頃)を特定することができた。

また、ワディ・モホラク地区においては、円塔墓から青銅剣が出土した。これまでアラビア半島北西部の円塔墓から、このような発見の類例はなく、重要な成果となった。本資料は、茎部のない剣身だけのタイプであり、柄部とはリベットで接続される珍しい類例である。中期青銅器時代前半(紀元前2000~1800年頃)の資料と考えられる。

2016度も関連地域のシリア、イランの古代遊牧民の葬制について口頭発表・ポスター発表を国際・国内学会で行った(雑誌論文、学会発表③~⑦)。

2017年度の調査は内陸部のワディ・グバイ地区に対して行った。この地区にも、銅石器時代と考えられる環状祭祀遺構と前期青銅器時代と考えられる円塔墓と台状祭祀遺構が含まれていた。2017年度の大きな成果は、ワディ・グバイ地区において、後期銅石器時代末期に属する集落遺跡を検出したことである。この遺構は径5mほどの円形遺構が連なった形状を有しており、集落と家畜囲いと考えられる。この遺構からの放射炭素年代データの計測値はまだ得られていないが、特徴的な剥片石器が出土しており、後期銅石器時代に遡る可能性は極めて高い。

2017年度に後期銅石器時代の集落遺跡を3件発見した。これらの遺跡は、本研究で進めてきた祭祀遺構とは異なり、台地縁辺のテラス部に位置していた。これまでは台地上の遺構群のドキュメンテーションを精力的に進めてきたが、最終年度で縁辺テラス部に集落遺跡を複数発見することができ、今後の研究の指針となった。

最終年度の成果として、国際中東考古学会議(International Congress on the Ancient Near East)の論文集に研究論文を発表した(雑誌論文)。また関連英文論文がもう1本ある(雑誌論文)。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Adachi, T and S. Fujii (2018.4) Shell Ornaments from the Bishri Cairn Fields: New Insights into the Middle Bronze Age Trade Network in Central Syria, *Proceedings of the 10th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, Harrassowitz Verlag, pp.239-246.

Adachi, T and S. (2018.3) Wadi Hedaja 1 and 2: A Chronological Assessment Based on Unearthed Artifacts, *al-Rafidan* 39, pp.55-69.

足立拓朗 (2017.11)「古代イランにおける青銅器から鉄器への変遷」『文明と鉄器—普及とその過程—』愛媛大学東アジア古代鉄器文化センター。

下岡順直・藤井純夫・足立拓朗 (2016.6)「光ルミネッセンス法を用いた地表面に

露出する先史遺構の年代推定の可能性」  
『日本文化財科学会第33回大会』126 - 127  
頁。

Adachi, T. and S. Fujii (2016.4) "Shell  
Ornaments from the Bishri Cairn Fields: New  
Insight into the Middle Bronze Age Trade  
Network in Central Syria," *10th International  
Congress on the Archaeology of the Ancient  
Near East, Abstract Booklet, 10th ICAANE,  
Institute for Oriental and European  
Archaeology*, Vienna, pp. 85-86.

Fujii, S. and T. Adachi, (2016.4) "Wadi  
Sharma 1: New Insight into the neolithization in the  
Northwestern Arabia," *10th International  
Congress on the Archaeology of the Ancient  
Near East, Abstract Booklet, 10th ICAANE,  
Institute for Oriental and European  
Archaeology*, Vienna, pp. 185-186.

Adachi, T. (2016.3) Shell Ornament Processing  
Methods in Northern Syria during the Early  
and Middle Bronze Ages, *Bulletin of the  
Ancient Orient Museum* 35, pp. 31-44.

足立拓朗 (2016.3) 「イラン、ギーラーン  
州出土の鉄器時代女性土偶の時期につ  
いて」『青山考古』31・32 合併号、129-138  
頁(査読無し)。

〔学会発表〕(計9件)

Adachi, T., T. Kurozumi and S. Fujii, Shell  
ornaments from Wādī Sharmah 1, a  
Pre-Pottery Neolithic B settlement along the  
east coast of the Red Sea, Seminar for Arabian  
Studies 2017, British Foundation for the Study  
of Arabia, London, the British Museum, 4th to  
6th August, 2017.

足立拓朗 「シリア中部、ビシュリ山系ケル  
ン墓群出土の青銅製鏃について」日本西ア  
ジア考古学会第22回大会、天理大学杉之  
内キャンパス、2017年7月2日。

足立拓朗・藤井純夫 「アラビア半島北西部、  
ワディ・シャルマ1遺跡の貝製遺物につ  
いて」日本オリエント学会第58回大会、慶  
應義塾大学三田キャンパス、2016年11月  
13日。

Adachi, T. "Dating of Female Figurines from  
Iron Age Gilan, Northern Iran", WAC-8,  
Kyoto, 2016.8.29

下岡順直・藤井純夫・足立拓朗 「光ルミネ  
センス法を用いた地表面に露出する先  
史遺構の年代推定の可能性」日本文化財科

学会第33回大会、奈良大学、2016年6月  
4、5日

Adachi, T. and S. Fujii "Shell Ornaments from  
the Bishri Cairn Fields: New Insight into the  
Middle Bronze Age Trade Network in Central  
Syria," 10th International Congress on the  
Archaeology of the Ancient Near East,  
Austrian Academy of Sciences, Vienna, 25-29,  
April 2016.

Fujii, S. and T. Adachi, (2016.4) "Wadi  
Sharma 1: New Insight into the neolithization  
in the Northwestern Arabia," 10th  
International Congress on the Archaeology of  
the Ancient Near East, Austrian Academy of  
Sciences, Vienna, 25-29, April 2016.

足立拓朗・藤井純夫 「サウジアラビア、タ  
ブーク州における初期遊牧民遺跡出土の  
貝製品について」日本オリエント学会第57  
回大会、北海道大学、2015年10月18日。  
足立拓朗・藤井純夫 「シリア中部、ビシュ  
リ山麓ケルン墓群出土の貝製品の年代に  
ついて」日本西アジア考古学会第20回大  
会、名古屋大学、2015年6月14日

〔図書〕(計1件)

足立拓朗 (2015.10) 「サウジアラビアーイ  
スラームの聖地における文化財保護」、『ヨ  
ルダン—観光と文化財の利活用』野口淳・  
安倍雅史(編) 『イスラームと文化財』、  
97-103頁、126-1132頁、新泉社。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

足立拓朗 (Takuro ADACHI)  
金沢大学・歴史言語文化学系・教授  
研究者番号: 90276006

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

長屋憲慶 (Kazuyoshi NAGAYA)

金沢大学・国際文化資源学研究センター・  
特任助教  
研究者番号：60647098

(4)研究協力者  
なし